日本未病システム学会雑誌　14(2)：310-313，2008

研究論文●43

プライマリーケアへのホメオパシー導入による地域医療の質の向上への有効性調査(実践事例と意識調査)

由井　寅子[1)]　　宮崎日出子[2)]　　高橋　和子[3)]

1．目的

欧米，インドではホメオパシーによるセルフケア，プライマリーケアへの応用による自己責任での健康管理が進んでおり，代替医療として様々な場面でホメオパシーが活用されている。日本でもホメオパシーを応用することで，産科医や小児科医の不足や，地域医療の格差などの問題に対しての貢献が期待できることから，その有効性を利用者意識調査と実践事例を通じて検証する。

2．方法

①日本ホメオパシー医学協会により，ホメオパシー利用者やホメオパシー講演会参加者へのアンケート用紙送付による2008年ホメオパシー利用者意識調査を実施。

②熊本市宮崎助産院を利用する妊産婦の健康管理指導でのホメオパシー利用者意識調査を実施。

③医師が常駐しない離島，静岡県熱海市初島でのホメオパシー家庭用キット配置による応急，救急・救命ケアへの貢献可能性調査を実施。

3．結果

①2008年ホメオパシー利用者全国実態調査(中間報告)の結果の要約を図1に示す(回答者数：853人)。

1．回答者のプロフィール

年齢＝29歳以下：6％，30～39歳：50％，40～49歳：31％，50～59歳：8％，60～69歳：4％，70～79歳：1％

性別＝男性：4％，女性：96％

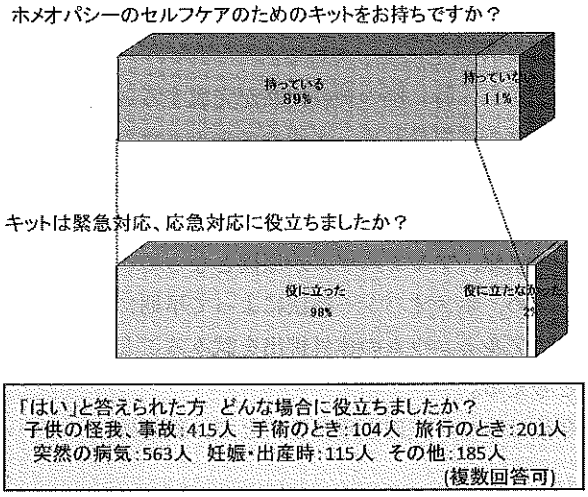


図1　ホメオパシーキットの緊急・応急対応への貢献
(2008年ホメオパシー利用者全国実態調査(中間報告)より)

2．ホメオパシーのレメディーを利用したことがありますか？

はい：98%，いいえ：2％

1)「はい」と答えられた方におうかがいします。

・レメディーはどれくらいの期間，利用していますか？

半年以内：15%，1年以内：10%，2年以内：17%，3年以内：19%，5年以内：22%，5年以上：18%

1) 日本ホメオパシー医学協会　2) 宮崎助産院　3) 日本ホメオパシーセンター静岡熱海

2）「いいえ」と答えられた方におうかがいします。

・今後利用したいと思われますか？

はい：94%，いいえ：6％

3．ホメオパシーのセルフケアのためのキットをお持ちですか？

はい：89%，いいえ：11%

1）「はい」と答えられた方におうかがいします。

・キットは緊急対応，応急対応に役立ちましたか？

はい：98%，いいえ：2％

・「はい」と答えられた方　どんな場合に役立ちましたか？(複数回答可)

子供の怪我，事故：415人，手術のとき：104人，旅行のとき：201人，突然の病気：563人，妊娠・出産時：115人，その他：185人

4．ホメオパシーのレメディーを利用することで，

市販の薬の使用頻度はどうなりましたか？

大幅に減った：81%，少し減った：10%，変わらない：9％，増えた：0％

サプリメントの使用頻度はどうなりましたか？

大幅に減った：73%，少し減った：11%，変わらない：16%，増えた：0.2%

5．ホメオパシーのレメディーを利用することで，医療機関にかかる頻度はどうなりましたか？

大幅に減った：71%，少し減った：17%，変わらない：12%，増えた：0.1%

6．ホメオパシーの健康相談会を受けたことがありますか？

はい：76%，いいえ：24%

1）「はい」と答えられた方におうかがいします。

・最初の主訴は改善しましたか？

大きく改善：44%，少し改善：40%，あまり改善なし：10%，改善なし：5％

・主訴以外の症状は改善しましたか？

大きく改善：38%，少し改善：49%，あまり改善なし：10%，改善なし：3％

・相談会の成果に満足していますか？

とても満足：51%，まあまあ満足：41%，やや不満：4％，不満：3％

2）「いいえ」と答えられた方におうかがいします。

・今後，健康相談会を受けてみたいですか？

是非受けてみたい：41%，問題があるときに受けてみたい：29%，機会があれば受けてみたい：29%，受けてみようとは思わない：2％

7．これからもホメオパシーを健康維持に利用していきたいですか？

はい：99.6%，いいえ：0.4%

8．現在，ホメオパシーのレメディーは，誰でも利用することができますが，今後もその形が望ましいと思いますか？

はい：99%，いいえ：1％

9．ホメオパシーがもっと日本で広がれば良いと思いますか？

はい：100%，いいえ：0％

②宮崎助産院を利用する妊産婦の健康管理指導での利用者意識調査の結果(要約)（図2）

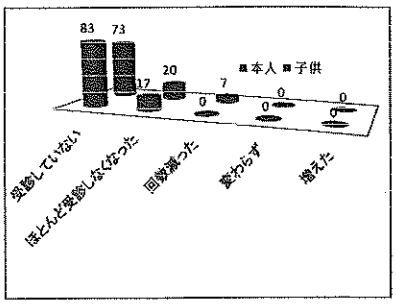
③2004年よりホメオパシーのレメディーを家庭内に導入を開始し，住民230名(2008年7月現在)に対し，現在は6世帯(12カ所)にホメオパシー・レメディーキットなどを常備する。これらを用い，島民，特に妊婦，乳幼児，小児のセルフケア・プライマリーケアを行う。また，観光客，特にダイバー，釣り客，海水浴客の急な病気・怪我などのセルフケア・プライマリーケアを行うことにより，搬送前の応急対応や緊急搬送でなく対処する例が出てくる。

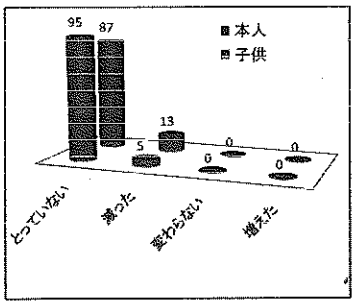
対応例として，小学2年女子。観光で島を訪れた際，岩場で転倒し，外傷，裂傷，捻挫などが認められたため，ホメオパシーで応急対応した例や，漁業やダイビングの現場において，海での外傷，海洋生物による刺傷・咬傷，日焼け・熱中症，潜水にまつわるトラブル，船酔いなどにホメオパシーによるセルフケアが行われ，この初期対応によりその後の重症化を未然に防いだケースが多く報告されている例，夜間の子供の急性症状(発熱，熱性痙攣，感染症，流行性疾患)に対して，まずホメオパシーによるセルフケアを家庭で行うことで，漁船やヘリコプターでの搬送回数が減少，そして必要があれば翌日，定期船を用いて受診するケースが多くなった例，幼稚園児が両手の平をストーブにより火傷し，ホメオパシーキットでの緊急対応(初島から電話による対応確認あり)により，皮膚移植の必要もなく，重症化せず完治した例などあり，成果が上がっている。

Q1. ホメオパシーキットを使い始めてから、
病院の受診の頻度や薬を使う頻度はどのように変化しましたか。

A1-1.【受診の頻度】
受診していない　(83%/73%)
ほとんど受診しなくなった　(17%/20%)
回数減った　(0%/7%)
変わらず　(0%/0%)
増えた　(0%/0%)
※(　)内数字は(本人/子供)の意

A1-2.【薬を使う頻度】
とっていない(95%/87%)
減った(5%/13%)
変わらない(0%)
増えた(0%)





Q2.　自分の健康は自分で守るという認識はありますか。または出てきましたか。
A2.　はい(100%)　いいえ(0%)

図2
(宮崎助産院(熊本市)を利用する30家族の実態調査より抜粋)

4. 考察

①のホメオパシー利用者意識調査の結果から，ホメオパシーキット利用者の98%が救急・応急対応に役立つとしており，使用例として子供の怪我・事故や急病，旅行時などが多いことから，家庭での救急・応急対応には，ホメオパシーの普及がプライマリーケアの役割を果たすことが十分可能と考える。さらに，ホメオパシー利用者において医療機関にかかる頻度(大幅低減71%，少し低減17%)や市販薬の使用頻度(大幅低減81%，少し低減10%)が大きく低減していることから，ホメオパシーによるセルフケアが家庭に浸透することにより，不要不急な医療機関への依存が解消され，本当に必要とする人が必要なときに必要な医療を受けられる社会を築く一助となり，さらに高齢化社会での医療費負担増の解決につながるものと考える。このことは②および③の利用者意識調査と実践事例の結果からも示唆され，助産院という「お産」に関わる現場やいわゆる医療僻地といわれる離島などでホメオパシーが普及することで，自己や家族の健康管理に関する意識向上を図ることが可能となり，医療機関への過度の依存状態を解消していくことができるものと考える。

代替医療としてのホメオパシーの有効性を検証するためには，専門の知識と経験を有するホメオパシー療法家(ホメオパス)による健康相談での実態調査の結果がその判断材料となる。①の利用者意識調査の結果では，ホメオパシー利用者の76%がホメオパシー健康相談を経験しており，経験者の中で「主訴」については「大きく改善」「少し改善」を合わせると全体の84%が，「主訴以外の症状」も「大きく改善」「少し改善」を合わせ全体の87%が改善傾向を示していることから，日本においてもホメオパシーが補完・代替医療として大きな可能性を有すると判断される。ここで最も重要なことは，医療現場や地域の人々としっかりと結びついた形で，ホメオパシーの教育と実践を進めていくことであり，正しいホメオパシー療法の普及活動と，現代医学とどのように補完・代替体制を築いていくかを検証しなければならない。今後の課題としては，ホメオパシー療法家への相談窓口の整備や医療機関との提携，代替医療や予防医学など各関連分野との学術交流など，実績を積み重ねていくことが大切であると考える。

日本では高齢化社会の急速な進展により，社会保障国民会議の試算でも，2025年度には医療・介護費が90兆円を超えるとされており，「自分の健康は自分で守る」というホメオパシー・セルフケアが根づくことにより，国民の健康レベルの意識向上につながり，結果として医療・

介護費が適正な水準に抑制され，活力ある国民生活の維持につながる。そのためにホメオパシー療法が担う役割は極めて大きいと考える。

文　献

1）Riley, D., Fischer, M., Singh, B. et al.：Homeopathy and conventional medicine：an outcomes study comparing effectiveness in a primary care setting. J. Altern. Complement. Med. 7(2)：149–159, 2001.

2）Skinner, S. E.：An Introduction to Homeopathic Medicine in Primary Care, Jones & Bartlett, Sudbury, MA, USA, 2001.

3）鴫原　操：ホメオパシーを陣痛・産痛緩和に利用して．ペリネイタルケア　No. 302：31，2005.

4）由井寅子：ホメオパシー的妊娠と出産，ホメオパシー出版，東京，2007.

5）ミヒャエル・トイト，ヨハネス・ヴィルケンス：脳卒中のためのホメオパシー，p. 16，ホメオパシー出版，東京，2008.

6）Witt, C. M., Ludtke, R., Mengler, N. et al.：How healthy are chronically ill patients after eight years of homeopathic treatment?—Results from a long term observational study. BMC Public Health 8(1)：413, 2008.

7）Gemmell, D. M.：Everyday Homoeopathy, Beaconsfield Publishers, Beaconsfield, UK, 1997.